



## 脱原発が私達の願い！！

…「日本のチェルノブイリ」が  
起きてしまう前に…

まだ、私達の記憶に新しい、昨年9月  
11日のニューヨークテロ事件。

11月7日には、浜岡原発1号炉配管  
破断事故（詳細は、次ページの連載26  
を参照してください）。

そして、忍び寄る東海大地震。（その中  
心に、浜岡原発があります）。

21世紀は、不気味な出来事が勢ぞろい  
して幕をあけました。

私達は、チェルノブイリの事故が起きて初めて、原発の放射能による破滅の恐ろしさに  
気づき、被災者の支援を続けてきました。しかし、もう一度、足元の日本を直視しなけれ  
ばなりません。



2002年、私達「チェルノブイリ救援・中部」は、警鐘を鳴らし、そして叫び続けます。

一刻も早く「**原発のない世界を作りましょう！！**」と…

東海大地震が来る前に…。

テロが原発を狙い撃ちする前に…。

そして、日本の老朽化原発に仕掛けられた、数々の時限爆弾が破裂してしまう前に…。

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町 137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：大谷早苗

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073（月・水・金 10：00～17：00）

E-mail：chachubu@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.com



## 圧力容器水漏れも長期間見逃し

11月の中部電力浜岡一号原発の配管破断事故は、配管にたまった水素の爆発が原因であることが明らかになった。直径15センチ、厚さ1センチもの強固な炭素鋼のパイプが、一瞬にして真っ二つに割れる破断は世界的にも極めて稀である。その原因が配管内にたまった水素というのは世界でもはじめてである。世界で原発が始まってから50年近くなるが、改めて原発には未知の危険性が潜んでいることを実感せざるを得ない。いったんチェルノブイリ級の事故になれば、後から原因がわかっても仕方がないのである。

中部電力が、爆発した1号炉と同じ構造の配管をもつ2号炉を調べた結果は驚くべきものだった。破断した1号炉と同じ構造の配管部分には水素が46%、酸素が23%もの高濃度でたまっていたのである。これでは、着火原因（火種）があれば、即爆発である。原発の配管自体が爆弾だった。ついでながら、この爆発により、配管のあった部屋の鉄の扉は付け根からもぎ取られ、6メートルも離れたところに吹き飛ばされていた。爆風と衝撃のすさまじさが想像できよう。部屋に人間がいなくて幸いであった。これは外部のテロを心配する以前の問題である。

何故水素と酸素が高濃度にたまったのか、何故火の気もなく蒸気が充満しているはずの配管内で着火したのか、など本当の原因追求はこれからである。考え得る水素の供給源は二つある。一つは、原子炉内の強烈な放射能により、冷却水が放射線分解され、

水素と酸素に分れる。しかし、これらはすぐに再結合して水に戻ったり、あるいはタービンからの排気と一緒に外部に排出され、原子炉の配管を循環している水には、通常は0.2ppm程度しかなく、遠くの配管まで高濃度で達することはない。第2は、この放射線分解によるわずかな酸素が配管金属を酸化腐食させ、配管の応力腐食割れ事故が80年代に続出したため、これを防止するために、1990年頃から原子炉の給水にわざわざ水素を注入するようになった。しかし、その濃度もただか2ppm程度である。今回検出された46%はその23万倍にもあたる。その濃縮メカニズムに加えて、着火原因が未だに不明である。中電は爆発した配管の実物模型を作って原因を解明しようとしているが、何百箇所、何千メートルを超える原発内の配管のどこにどれだけの水素と酸素が濃縮するかを解明するのは不可能であろう。また、この爆発が緊急炉心冷却装置のスイッチをいれた瞬間に起こったという事実は、原発を止めるために制御棒を挿入した瞬間爆発したチェルノブイリ事故を想起させ、安全対策そのものが事故原因（着火原因）を作っている可能性もあり、原発の安全性と信頼性にますます不安をもたらすものである。

今回の事故原因は政府の安全審査でも全く問題になっていなかった。安全審査に当たった専門家たちの責任が問われてしかるべきである。今回の事故はあらゆる点で、原発の安全保障に対する根本的な問題を提起している。（河田昌東）







# ウクライナ講座

「ウクライナの料理—ボルシチを作ろう！」

昨年、12月15日(土)に名古屋市東生涯教育センターで、2001年最後のウクライナ講座が開かれました。講師は、安城市在住の中島ナジェーシダさんをお願いしました。とても気さくな方で、すぐに打ち解けてにぎやかな料理教室となりました。献立は、“ボルシチ”と“プリンチキ”でした。レシピを紹介しましょう。

## ボルシチ (5~6人分)

<材料>

スペアリブ	大	5~6本	ローリエ		2枚
じゃがいも	中	1個	にんじん	中	1/2個
玉ねぎ	中	1個	キャベツ		1/4個
ピーツ (瓶づめ)		1/2個			
ケチャップ		250g	塩		大さじ 1
こしょう		適宜	にんにく		1かけ
ディルとイタリアパセリ		少々	サラダ油		大さじ 2

仕上げに、サワークリーム・ヨーグルト・マヨネーズなど



「ボルシチには欠かせない“ピーツ”」

<作り方>

- ① ブイヨンを作る。スペアリブは食べやすい大きさに切る。(又は、火が通った後で骨からはずし、一口大に切る。)水1.5ℓにスペアリブとローリエを圧力鍋に入れ20分間沸騰させる。
- ② 煮込み用の野菜を切る。じゃがいもは、1cmのサイコロ大に切る。にんじんは、さがきにする。玉ねぎは、粗いみじん切りにする。キャベツは2~3mm幅の千切りにする。ピーツは0.5×1.0cm大に切る。
- ③ 玉ねぎとにんじんを炒める。フライパンにサラダ油大さじ2を入れ、温まったら玉ねぎとにんじんを炒め、弱火にして玉ねぎがキツネ色になるまで、ふたをしておく。野菜に火が通り柔らかくなったら、ケチャップを250g入れる。最後にピーツとピーツの漬け汁も加えて軽く混ぜ、火を止める。(水分が多いくらいが良い。)
- ④ 飾りの野菜を切る。ディルとイタリアンパセリをみじん切りにする。
- ⑤ スープの味を整える。圧力鍋のふたを取り、じゃがいもを入れ、塩大さじ1を入れる。(好みで追加しても良い。)じゃがいもに火が通り柔らかくなったら、キャベツを加える。キャベツが好みの固さになったら③を鍋の中に入れ、火を止める。
- ⑥ 仕上げる。にんにく1かけをすりおろしスープに加え、④を入れてふたをする。皿に盛り、好みでサワークリーム、ヨーグルト、マヨネーズを1さじ付け加える。





## プリンチキ (4~5枚分)

### <材料>

A. 薄力粉	250g
ベーキングパウダー	小さじ1
塩	少々
砂糖	大さじ2
卵	1個
生クリーム	100ml
牛乳	250ml
B. 玉ねぎ	1/4個
豚ひき肉	400g
サラダ油・バター	
塩・こしょう	適宜



「美味しいですか？」

「……(モグモグ)。……(パクパク)。」

### <作り方>

- ① クレープ種を作る。薄力粉をふるいにかけておく。ボールにAを入れ全体を混ぜ合わせる。最後に牛乳を加えながら、シチュー程度にのばす。だまを取り除くために、一度ざるで濾す。
- ② 具を作る。フライパンにサラダ油を入れ、みじん切りにした玉ねぎを炒め、キツネ色になったら豚ひき肉を加えて更に炒める。塩・こしょうで味を整える。  
(ミキサーにかけてペースト状にしておくと、ぼろぼろせず食べやすい)
- ③ クレープを焼く。フライパンを温め、お玉一杯分を破れないように薄く広げ、両面を焼く。
- ④ 仕上げ。焼きあがったクレープの真ん中に、②を大さじ2程度乗せ、破れないようにクレープで包んでおく。食べる直前にバターを引いたフライパンで両面を焼く。

### <参加者からのお手紙>

先日のウクライナ講座でも、一人で参加した私にみなさんとても親切にしてくださって、楽しい料理教室でした。私は、いろんな国の料理を食べるのが好きで“ボルシチ”は食べたことがなく、今回、食べることができたので私としては大満足です。(Kさん)

★ ★ ★ 2002年のウクライナ講座は、次のような予定で行ないます ★ ★ ★  
第3期「ウクライナ講座・2002」

第1回 2/23 (土) 14:00~16:30 (名古屋市教育館：階段教室)

## 「冬のウクライナ…2月訪問団の報告会」

以降、偶数月の第3土曜日(第4土曜日の場合もあります)を予定しています。

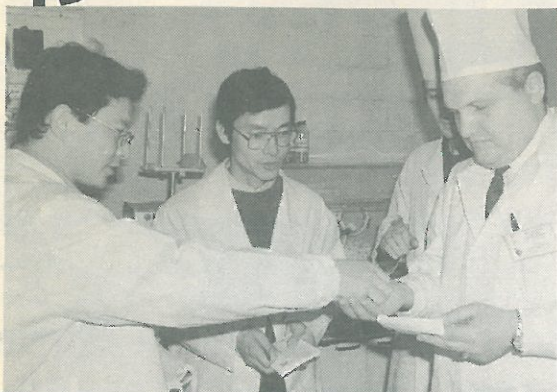
内容は「ウクライナからのお客様」「ウクライナの街」「ウクライナの教会」「ウクライナの味」などです。ウクライナの理解を深め、ウクライナの魅力をお伝えしようと考えています。お気軽にご参加ください。



# 特集

## 2月訪問団

## 行ってきま〜す！



### 郵政事業庁ボランティア貯金交付金事業

臨床工学技士による、「医療機器メンテナンス事業」の目的は、①臨床工学技士などの専門職養成 ②寄贈医療機器の稼働状況・所在確認・点検 ③院内講義「医用安全管理学」「呼吸療法全般」の実施 ④医科技術専門学校での講座開設準備についての提案 ⑤修理機器の調査とメンテナンス ⑥診療材料・消耗品継続供給 ⑦各施設のマネジメント提案 ⑧医療施設の問題と今後の課

題検討です。「専門職養成」のターゲットは、第3回スタディツアーでお世話になったアンドレイさんです。アンドレイさんは、州立小児病院の看護職員であるということが分かり、マルチェンコ州立小児病院院長にも理解を得て、通訳兼アシスタントをお願いしました。期間中、アシスタントをしてもらいながら臨床工学技士（ME）の学習をしてもらいます。また、州保健大臣に面会し、臨床工学技士などの専門家を養成するメリットを理解していただき、ぜひ現地の医療専門学校にも新たな講座を開設してもらおうようお願いする予定です。

### 外務省交付金専門家派遣事業

看護婦による、「栄養調査」を行ないます。現地の被災者や医師達は、「罹病率が高いのは、経済破綻による慢性的な貧困生活で、十分な栄養バランスが保たれないのも病気に罹りやすい原因の一つではないか？」と考えています。私達は、現地の医療施設で働く「栄養管理責任者」に会い、事故前と事故後の食事や食材の変化について、その人の意見を聞き疾病と食事との関連を調査します。彼らの言うように貧困によって栄養バランスが悪いために発病しているのであれば、バランスのとれた食事を支援することで、彼らの健康状態を改善する可能性が開けるかもしれないと考えました。



＜専門家派遣の林さん（中央）と北野さん（右隣り）＞

### 自己資金 1,000 万 PJ 事業

今回の現地調査を最終調査とし、いよいよ1,000 万事業の第一歩を始めます。高額な事業のため、慎重に慎重を重ねての調査を行ないます。訪問にあたり日本の養鶏場を訪問しました。ウクライナの養鶏事情を知るために養鶏場を訪問することを目的に加えました。寒冷地での養鶏が軌道に乗れば、サナトリウムに汚染されていない卵と鶏肉が安く提供され、自給自足は自立への一歩となります。





訪問メンバーは、原富男団長・佐保克彦事務局員（二人は、「1,000万PJ担当」）、北野達也臨床工学技士・塩野谷幸映さん（同じく臨床工学技士ですが、今回は自費参加で北野さんをサポートします。二人は、「メンテナンス事業担当」）そして、看護婦の林照美さんと神野美知江さん（二人は、「栄養調査担当」）の6名です。

3つの事業を1回の訪問でこなすという、受け入れ側の移住基金にも無理をお願いして、充実した内容となりました。今のところ現地との調整中です。

月・日(曜)	現地時間	スケジュール(案)			宿泊場所
		メンテナンス事業	栄養調査	1,000万PJ	
2/8(金)	10:50 14:55	関西空港発(KL-868) アムステルダム・スキポール空港着			ホテル ヴァン ト・レツ デニス (泊)
2/9(土)	11:05 14:55 18:00	アムステルダム・スキポール空港発(KL-1385) キエフ・ボリスポリ空港着 シトミルへ到着			州立小児病 院職員寮
2/10(日)	08:00 午前 午後 19:00	朝食 「市立小児病院」と「州 立小児病院」の医療機 器稼働状況の確認 夕食	朝食 「テネ・サトリム」の 栄養管理者との面 接 夕食	朝食 「1,000万PJ」 についての話し合い 夕食	州立小児病 院職員寮
2/11(月)	08:00 終日 19:00	朝食 「州立小児病院」で医 療機器のメンテナンス 夕食	朝食 「テネ・サトリム」の 栄養管理者との面 接 夕食	朝食 「テネ・サトリム」の視 察と養鶏業者視察 夕食	州立小児病 院職員寮
2/12(火)	08:00 終日 19:00	朝食 「ナロジチ地区病院」 で医療機器の稼働状況 確認とメンテナンス 夕食	朝食 「ナロジチ地区病 院」の栄養管理者と の面接 夕食	朝食 「ナロジチ地区病院」 の視察 夕食	州立小児病 院職員寮
2/13(水)	08:00 午前 午後 19:00	朝食 「市立小児病院」で医 療機器のメンテナンス 院内講義(90分) 夕食	朝食 「州立小児病院」の 栄養管理者との面 接 夕食	朝食 「1,000万PJ」詰め の話し合い 夕食	州立小児病 院職員寮
2/14(木)	08:00 午前 午後 19:00	朝食 「州立小児病院」で医 療基金のメンテナンス 院内講義(90分) 夕食(さよならパ-ティ)	朝食 移住基金と次年度事業について事務的な話し 合い・精算支払など 夕食(さよならパ-ティ)		州立小児病 院職員寮
2/15(金)	08:00 13:50 15:50	キエフへ出発 キエフ・ボリスポリ空港発(KL-1386) アムステルダム・スキポール空港着			ホテル テルミナ (泊)
2/16(土)	14:00	アムステルダム・スキポール空港発(KL-867)			機中泊
2/17(日)	09:05	関西空港着 解散			



## ふたたび、アタマンチュク家からの手紙

父パーヴェル・A・アタマンチュクから (1996. 3. 20)

尊敬すべきチェルノブイリ救援・中部の皆様

お便りありがとうございます。家族全員でお礼申し上げます。遠い日本からのお手紙は、私を心の奥底まで感動させました。私たちを忘れないで、精神的および物質的援助をしてくださいありがとうございます。

私はアタマンチュク・パーヴェル・アレクサンドロヴィッチです。妻はタチアーナ、娘のネーリャは11歳、息子ヤロスラフは4歳です。妻は中学校の教師、娘は6年生、息子は幼稚園に通っています。私は建築家です。

私たちは、チェルノブイリ事故後の10年間ずっと汚染地区に住んでいるので、自分のこと、子どもたちの健康のことをいつも不安に思いながら暮らしています。最近、食料品も工業製品もすべて高くなり、暮らしにくくなりました。家族に食べさせるために、自分で野菜を作り、肉、牛乳を生産せざるを得ません。チェルノブイリの事故が、世界中で二度と繰り返されませんように。

娘ネーリャから (2001. 11. 28)

こんにちは、親愛なるチェルノブイリ救援・中部の皆様

これを書いているのは、あなた方からお手紙をいただいたパーヴェル・アレクサンドロヴィッチ・アタマンチュクの娘

です。お手紙は、我が家に保存されています。私たちはあなた方の、私たちチェルノブイリ事故被災者に対する配慮の気持ちにうたれました。現在事故はその影響を明らかにしており、私たちは病気にかかり、神が与えてくださる寿命を生きていくばかりです。

なぜお手紙を書くことにしたか、お知りになりたいでしょうか。私は自分と家族の生活、自分と家族の直面している困難についてお話ししたいのです。

お手紙をいただいた父は、5年前に急死しました。私と弟は、母とともに残されました。私は17歳です。学校で9年生を終えた後、ジトーミル薬学専門学校に入学しました。2002年に卒業します。その後、医科大学で勉強を続けたいと思っています。そこで生じる厳しい問題は、大学の学費をどう調達しようかということです。私はあなた方に支援をお願いしたいのです。金銭的な援助、学費の援助をしていただけないでしょうか。そうしていただけば本当にありがたいと思います。神とすべての皆様、救援・中部に対して、感謝させていただくことでしょう。私からの願いは以上です。ご面倒をおかけし申し訳ありません。

チェルノブイリ事故のような不幸と悲しみが、世界中で二度と起こりませんように。

尊敬と感謝を込めて。

ネーリャ・アタマンチュク

ウクライナ、ジトーミル州、ルギンスク地区、ボフスヌイ村





## ☆☆星美学園を訪問して☆☆

(大谷早苗)

「チェルノブイリ救援・中部」が活動を始めたときから、毎年支援をいただいている静岡星美小学校のクリスマス会に、第3回スタディツアーで一緒した静岡在住の白井さんと二人で、参加させていただきました。

クリスマス会では、4年生全員出演の創作オペレッタ「長靴をはいた猫」と小学生全員の「聖劇」を観せていただきました。自分達で配役を決め、納得のいくまで練習をされたとのことで、とても楽しく心暖まる素敵なひと時を過ごさせていただきました。その後、星美のみなさんが、一年かかって集めたアルミ缶で買った、「車椅子1台」と後援会からの「寄付金10万円」の贈呈がありました。

その他にもたくさんのクリスマスカードや、ベッドカバーに使えるような生地などもいただきました。

星美学園では、後援会のみなさんが、チャリティバザーを開くなどの協力をいただきながら、チェルノブイリだけではなく、様々な地域に支援をされている事などのお話も伺い、頭のさがる思いで帰ってきました。

星美のみなさん本当にありがとうございます。



## “車椅子キャンペーン” 終了、ありがとうございました!

2001年夏から始めた、ウクライナへ贈る“車椅子キャンペーン”は、昨年12月末にて終了しました。みなさまのご支援に感謝します。

みなさまからのカンパ10万円と自治労名古屋からの10万円で購入できる4台、静岡星美小学校の生徒の皆さんが1年間集めたアルミ缶で得たお金で買ってくださった貴重な1台に、個人の方からいただいたメンテナンスされた中古の3台をあわせて、合計8台の車椅子をウクライナの障害者に贈ることが出来ます。同国内では手に入りにくい車椅子は、彼らの困難な生活の大きな助けになることでしよう。車椅子は、3月にコンテナ便で発送される予定です。



2001年

# X'masカードキャンペーン

にご協力ありがとうございました！

毎年恒例となったカードキャンペーン。今年度も、本当にたくさんの方々にご協力をいただきありがとうございました。1334 通ものメッセージカード・クリスマスカードが事務所に届き、部屋中一杯に広げて発送作業を行いました。

ウクライナの子ども達に思いを馳せて作られたカードには、暖かなメッセージや絵が描かれていて、作業する私達までが心を癒されるようでした。中には繊細な刺繍を施したものもあり、そのカードを受け取った子ども達の驚きと喜びが目に見えようです。

「わが家では、クリスマスカード作りが恒例行事となり、教えたり教えられるりと、子どもとの良きコミュニケーションの場となっております。…ウクライナの子ども達に少しでも夢や希望を持ってもらえれば幸いです…。」

「…今 8 才の娘（葉）が文字や絵を書いてくれました。来年こそ早くとりかかり、ちゃんとしたカードを送れるようにと思っています…。オニが笑うかな…。何かと大変な話ばかりで気がめいる時もありますが、我が身の幸せを感じ 1 年を締めたいと思います…。」

「…昨年の今頃の事を思えば、今年の冬の変わり様には言葉もありません。ポーシェにあった車イスの寄附金の額を見て、気持ちの上では何とかして差し上げたく思っても、これから先の我が家の経済状況の予測がつかない現状を考えると、どうしても足踏みせざるを得ない微力を切なく思います…。」

カードには、たくさんのお手紙がそえられていました。それを読ませていただくと、ますます「たかが 1 枚のカード、されど、本当に貴重な 1 枚のカード」と実感しています。

発送作業にも多くの方々に参加してくださいました。情報紙「ボラみみ」をみて、初めてボランティアに参加したという 2 人の女子大生、ボランティアに何度か参加していて、「いろいろな人の話が聞けるのが楽しい」という中学生の女の子、キエフから帰国中だったチェル救スタッフの竹内さん、その他何人もの人々とともに賑やかに作業は進みました。

このカードは、クリスマス（1 月 7 日）前にウクライナ現地へ届けられ、子ども達にプレゼントされました。 <山盛記>



<発送作業に精を出すボランティアの方達>



11月27日から1月6日まで、2年3ヶ月ぶりに日本に帰りました。94年9月に日本を出てから3度目の帰国。日本の正月は8年ぶりです。東京・名古屋・岡山の冬は、キエフに比べれば「暖かい」と言いたくなってしまいます。浅草の酉の市でたこ焼きを食べ、日本酒を飲み、浜名湖岸食堂でハゼの刺身を食し、岡山駅そばの寿司屋で瀬戸内の魚を味わうなど、各地の友人親戚のおかげで贅沢をさせていただきました。しかし、私は食にそれほど郷愁を覚えないタチで、今回特に楽しんだのは街歩きでした。田中小実昌も「ヨーロッパ・アメリカにはちいさな路地はない」と書いてますが、せまい道をひとりで好きな方にどんどん歩いていくのは、キエフではちょっとできない。岡山に2週間以上いましたが、ほぼ毎日、実家から街中の書店まで歩き、途中古いたても新しいたてものをながめ、浦上玉堂(江戸時代の絵描き)の旧宅跡なんていうのを見つけてよろこんだりしました。という、すごくじじむさい感じですが、昔住んでいた所を歩くというのは、時間と空間の両方の座標上を移動しているような気分になるものです。古い友人に会って話したりするとよけいさういう気になる。そうして私が古典や哲学書をめくって浮世離れしているうちにも、天皇家の御誕生騒ぎ(御誕生自体は騒がしいことではないはずですが)があり、アフガニスタンで戦争は進展し、狂牛病が問題になり、「不審船」が沈没させられとニュースは続きます。でも、日本のTVのニュースというのは、ウクライナのそれに比べて何となく緊迫感の度合いが少ないような気がします。まあ、何のかのと言っても暮らしていけるからだろうな。いや、生活に余裕があるのはよいことです。ただ、それに比例して気持ちと余裕があるか、という、必ずしも正比例ではないでしょう。しかし、こんなことは言い古されてることなので、書くのはやめます。

数年の間をにおいて日本に帰ると、目につくのは若い人の髪型・服装の流行の変化で、彼らが一様に同じかっこうをするのは個性がないときらう人もありますが、私などは面白がって鑑賞してしまいます。うつむいて携帯メール(?)を読みながら歩いたり立ち止まったりしている姿も、私には目新しいものです。おお時代よ! おお大量生産・消費社会よ! 自動車のデザインの変化も目にとまります。自動車について街歩きとの関連でいうと、日本の場合、自動車の登場以前からあった細い道が、現在はほぼすべて車道となっているので、車を使う人には便利かもしれませんが、歩行者や自転車の利用者にはきわめて危険に感じられます。ナビゲイターというものが一般乗用車に備えられているのにも驚きましたが、これに限らず、「高度技術は、いわゆる障害者のためにこそ大いに利用されるべきではないか」と私は以前から思っています。でも、実際にはあまりそうでもないのじゃないでしょうか。駅のプラットフォームなどに、以前よりエレベーターが増えたような気がする(重いスーツケースを持って歩いていると、これがうれしい)のはよいことと思いますが、日本の「現代文化」に接する時間はあまりありませんでした。次回の帰国時には、マンガや映画をみる時間がもう少しあれば、と思いますが……。各地でいろいろとご配慮いただいた方々には、この場を借りてもう一度お礼申し上げます。どうもありがとうございました。





### 事務局だより

昨年 11 月、事務所は久しぶりの模様替えを行いました。新しく事務局入りした佐保さんが、2台のパソコンを寄付してくれたからです。整頓上手の事務局長に促されて、整理整頓「大の苦手」人間も仕方無く片付けを行いました。折も折、キエフから帰国した竹内さんの来訪の日。「お帰りなさい。ようこそ！」と迎えるどころか、足の踏み場も無い状態で、失礼してしまいました。でもその甲斐あって、事務所は以前より大分使い易くなり、パソコンも 1 人 1 台。あとは約 1 名の事務局員（私）がパソコンを駆使できれば、言うこと無いのですが…。いつになるのやら、皆目見当もつきません。

話は変わりますが、2月専門家派遣の件です。去年事務局入りした佐保さんも、派遣団の一人としてウクライナに行き、原さんと共に、主に「デネシ・サナトリウムサナトリウムの自立支援特別プロジェクト＝鶏卵・鶏肉供給施設建設プロジェクト」について、現地関係者と話を詰めてくることになりました。今、熱心に準備を進めていらっしゃるようですが、なんとタイミング良く「国際建設技術協会」から「派遣支援事業＝海外での建設調査等の助成金交付制度」がある旨の情報が入りました。即日、事務局長が書面を作成し、FAX。これで 1 件落着くと思いきや、今度は正式の申請要綱が届き、しかも締め切りが翌日。つい諦めかけた私に「やるしかないですね。」と佐保さん。入ったばかりなのに頼もしい限りで、多忙の事務局長と共に申請書を作成してくれました。この申請が通りますようにと、約 1 名は「祈念」担当です。???

(山盛)

### 編集後記

☆危篤の父のベッドを取り囲むのは、母、姉、姪たち、叔母たち、そして私…。

うちつつくづく「女系家族」だね。唯一の男だった父は、安らかに永眠。合掌。(佳)

☆チェルノブイリ事故処理作業員たちのアンケートの翻訳が毎晩メールで送られてくる。

様々な病名を打ち込みながら、身体の深部から湧きつづけるため息…。15年の年月が事故直後の日々にピューと巻き戻される。(kykyo)

☆いよいよ、2月訪問の中味が具体化してきた。中部のスタッフも移住基金も、準備に大忙し。盛りたあ〜くさんのお仕事(泣)を、スーツケースに詰め込んで、さあ出発!(美)

☆表紙に、「原発ドームとそこに突っ込む旅客機」という合成写真を載せたかった。だけど、その瞬間(静寂と虚無の世界)を想像したら、思わず背筋がゾクッとした。正夢となりませんように…!(J)

〒456-0003 名古屋市熱田区波寄町20-14

「エープリント」(ポレーシェ印刷)

TEL・FAX (052) 871-9473